

氏 名（本籍）	まえ だ けい こ 子（静岡県）		
学 位 の 種 類	博 士（マネジメント）		
学 位 記 番 号	博 甲 第 5315 号		
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審 査 研 究 科	システム情報工学研究科		
学位論文題目	Social support for persons with schizophrenia (統合失調症患者のソーシャルサポート)		
主 査	筑波大学教授	工学博士	石 田 東 生
副 査	筑波大学教授	工学博士	橋 本 昭 洋
副 査	筑波大学教授	医学博士	中 谷 陽 二
	(人間総合科学研究科)		
副 査	筑波大学教授	工学博士	大 村 謙二郎
副 査	筑波大学講師	博士（商学）	岡 田 幸 彦

論 文 の 内 容 の 要 旨

統合失調症患者へのソーシャルサポートのあり方を考える上での基礎的資料を得ようとする研究である。論文は 7 章から構成されている。第 1 章は導入であり、精神的障害者（mentally disabled persons）へのケアと福祉のあり方について、我が国の従来の政策を批判的に概観し、その中でのソーシャルサポートの重要性を指摘している。第 2 章は、本研究の対象である統合失調症に関して、原因・症状・診断方法等を紹介しながら、対処方法と其中的でのソーシャルサポートとエンパワーメントの重要性を論じている。ソーシャルサポートとは、社会的制度、社会資源を含む支援全体を指すが、様々な対人関係を狭義のソーシャルサポートとしており、統合失調症患者では対人関係が崩れた状態になることが多く、この狭義のソーシャルサポートの重要性を指摘している。エンパワーメントとは、患者が障害についての理解や支援を、自らの権利として積極的に周囲に求めていく力であると定義し、この考え方が今後の対統合失調症政策として重要であることを指摘している。

以上は、いわば導入と用語・概念の説明であるが、続く第 1 部の 3 章と 4 章では、それぞれ、本研究の中心的概念となるエンパワーメントとソーシャルサポートの質問紙調査による計測方法を提案するとともに、その有用性について実証的に分析している。エンパワーメントの計測方法に関しては、欧米の計測方法を参考しながら、その 28 の質問から構成される日本版を作成し、統合失調症患者 28 名に適用し、その信頼性と精度についての検証を経て、次に 63 名の患者に拡大して適用し、QOL 指標、罹病期間、入院期間、精神症状との相関を統計分析している。その結果、エンパワーメントは QOL 指標との相関は有意であるが、他の変数とは相関が認められず精神疾患から独立していることを確認している。第 4 章は統合失調症患者 61 名と対照群としての健常者 90 名を対象に、NSSQ（Norbeck Social Support Questionnaire）を用いて、ソーシャルサポートを計測し、患者群のサポートが有意に低いこと、敵意と引きこもりについて、NSSQ との間に有意な負の相関が存在するなど臨床的有用性を確認している。

第 2 部は、第 1 部で開発提案したスケールを用いた応用分析である。第 5 章では、ソーシャルサポートの

全体と親からのサポートとの関係を4章でも用いたデータにより分析しており、患者群では両者の相関が高いが、健常者群では無相関であり、患者にとっての親からのサポートの重要性を示している。第6章では、社会的介入が患者の社会参加を促すかどうかを検討するために、精神障害者作業所に通所中の患者80名と対照群としての健常者60名を対象に、エンパワーメントとサポートの関連性を統計分析している。エンパワーメントは患者群で低く、またサポートの効果が有意であることが確認され、社会的介入の有用性についての知見が得られたとしている。

第7章は研究のまとめであり、研究の成果と統合失調症患者へのケア政策についての貢献を述べるとともに、研究の限界を踏まえた上で、今後のケアと福祉政策についての意見を述べている。

審 査 の 結 果 の 要 旨

著者は国立精神・神経センター精神保健研究所の協力研究員であり、統合失調症患者へのケアの現場にいる研究者である。そのことが問題意識のレベルの高さと研究目的の明確化に結実していて、良質の論文となっている。本研究の主力はソーシャルサポートとエンパワーメントの計測方法とその有用性の科学的検討と、これらを用いたケアのあり方と政策的含意を探るための応用的分析である。いずれも、データのハンドリングと結果の解釈と吟味には十分な注意を払っていて、分析上の問題もなく、従来、我が国においては明らかでなかった知見を得ている。これらはいずれも、今後のケアの現場で、また政策立案上で、有用なものであると思われる。ただ、7章の最後の節は、本研究の分析結果から直ちに導かれない記述も含まれているが、著者の問題意識の高さと統合失調症患者へのケアのあり方についての日常業務からの総合的考察として評価も出来よう。なお、論文の中心的部分はすでに査読付き論文7編として内外の専門雑誌に掲載されている。

以上より、本論文は博士（マネジメント）の学位論文としての水準に十分達していると判断する。

よって、著者は博士（マネジメント）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。